

活動名	秋葉原ウォーカブルプロジェクト 「マーケットストリート社会実験 in 秋葉原ジャンク通り」
-----	--

貢献・連携類型	1. 地域連携・協力
---------	------------

報告者	建築学科	学科	職位	准教授	氏名	泉山 壘威
-----	------	----	----	-----	----	-------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。
<p>2024年度、秋葉原ウォーカブルプロジェクトでは、秋葉原のウォーカブルなまちづくりに向け、「マーケットストリート社会実験 in 秋葉原ジャンク通り」を実施した。秋葉原ジャンク通りは、小規模で専門性の高い電気店やジャンクショップが集積する、秋葉原を象徴する通りである。軒先を活用した販売スタイルが活気に繋がっていたが、近年はその光景も減少しつつある。また、ベンチなどの滞留空間も不足しており、歩行者が快適に過ごし、活気を生む環境とは言えない現状にある。そこで、ジャンク通りの特色を活かし、歩行者中心の空間への再構築や同プロジェクトが推進する秋葉原ウォーカブルビジョンの策定に向けた検討を目的に、一時的な車両通行規制を行い、日常的な滞留空間を創出する社会実験を行った。</p> <p>具体的な実施内容として、①店舗前の道路を活用したワークショップ、②くつろぎ（滞留空間）の創出、③秋葉原ウォーカブルビジョンの普及啓発を実施した。また、①秋葉原におけるウォーカブルなまちづくりの展開、②歩行者優先の道路空間の創出、③来街者による新たな店舗発見や空間体験の機会創出、④店舗主と来街者間の新たな交流機会の促進、⑤秋葉原ジャンク通りのイメージ向上を効果検証の視点として、考察を行った。</p>

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。
<p>本社会実験を実施した結果、商品を見る・買い物をするなどの商業活動や来街者と店舗主との会話が増えるなど、新たな交流が生まれた。</p> <p>また、秋葉原ウォーカブルビジョンの普及啓発を行った結果、天気や気温に影響されずに歩ける空間や、気軽に休憩ができる空間等、快適な歩行空間・滞留空間が秋葉原に求められていることも明らかとなった。</p> <p>今後も秋葉原において、ウォーカブルなまちづくりの実現に向けて、秋葉原タウンマネジメントと連携した取り組みを行う。</p>

対象・相手先	東京都千代田区
--------	---------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）	無し
-------------------	----

実施日時	2024年 10月17日、10月18日、10月20日
------	-------------------------------

場所	東京都千代田区 秋葉原ジャンク通り
----	----------------------



本学からの参加者 建築学科： 泉山壘威准教授、都市計画研究室（泉山ゼミ）の学生・大学院生 約40名
--

